

太田川の水辺整備と地域づくり

中国地方整備局 太田川河川事務所 所長 阿部 徹

1. はじめに

太田川は広島県西部の廿日市市吉和の冠山を水源とし、中国地方の中核都市である広島市で6つの派川に分かれて瀬戸内海に注いでいる。広島市の街づくりは1589年に毛利輝元が当時の太田川河口の中州に築城を開始したことから始まったといえる。その当時から河川改修は街づくりと一体不可分の関係であった。その後も地理的条件からたびたび襲来する水害に悩まされ、幾多の洪水、高潮災害が記録されている。昭和7年より内務省による河川改修に着手することになったが、最初の改修事業の中心は太田川下流部の洪水流下能力を飛躍的に増大させる放水路の建設であった。太田川放水路は、戦争による中断を挟みながら昭和42年に完成し広島市街地の治水安全度は大きく向上した。また、太田川放水路の治水効果によって他の5本の市内派川は川幅拡幅等の大規模改修から免れ江戸時代からの石積護岸や雁木と呼ばれる河岸の荷揚場が今でも残り独特の景観を創り出している。さらに、太田川放水路をはじめとする6本の大きな河川が市街地を流れ、市街地に占める水面積の比率が12%と大きく広島市は正に水の都と言えることができる都市である。今回、太田川の水辺整備の系譜と「水の都ひろしま」構想以降の取り組みについて紹介する。

2. 太田川の水辺整備の系譜

太田川の水辺整備の系譜における特徴的な事例は、太田川下流部の治水対策として太田川放水路という大規模治水工事が行われることにより、分派点締切による全国に先駆けた多自然川づくりの実施、中央公園の都市計画決定とも一体となった景観を考慮した護岸整備による先駆的事例、8月6日の精神的支柱となるエリアにおける環境護岸整備などが挙げられる。また、広島のみならず個性を活かしてより潤いのあるまちにすることを目指し、平成2年に国・県・市の協力の下、策定された「水の都整備構想」によって、親水性の高い護岸や河岸緑地、デザイン性の高い橋梁などが整備され、広島市の財産となる美しい水辺環境が形成されてきた。以下にいくつか紹介しよう。

1) 古川せせらぎ公園

古川はかつて太田川の本流であったが、慶長12年(1607)の洪水により本流が現流路に移ったため太田

川の派川となった。洪水時には分派流路として下流部の被害軽減に寄与していたが、太田川放水路等の太田川下流部の改修に伴い、昭和44年に分派点が締め切られ、分派路としての役目を終えた。一方、古川沿川は当時、都市化の波を受け急速に変貌しており、古川改修計画の骨子は、治水面はもちろん、都市河川として必要な緑地ならびにレクリエーションの場を提供する河川公園とすることであった。このような背景の中で、全国に先駆け、親水性と景観に配慮し堤防、高水敷、護岸、低水路に様々な工夫を行った多自然川づくりに昭和49年着手した。

せせらぎ河川公園を常に美しくしておきたいという願いから、昭和54年に地域住民によって現在会員数3,000人にのぼる「せせらぎ会」が結成され、清掃活動や、夏には「せせらぎの夕べ」が開催されるなど、せせらぎ河川公園は完全に地元住民の中に融け込んでいる。



写真—1 せせらぎの夕べ



写真—2 せせらぎ公園での清掃活動

2) 基町環境護岸

基町地区は、戦前、戦中には軍の施設用地として使用され、戦後は戦災者収容のための公営住宅用地となったが、不法占用のバラックも加わりスラム化していた地区であった。昭和27年には広島城を含めた中央公園の予定地として都市計画決定され、不良住宅の解消が行われてきていたが、これらの動きと歩調を合わせ旧太田川左岸の相生橋から上流880mの区間について昭和54年から58年度にかけて整備を行った。計画の立案に際しては、河川に対する市民の意識・行動の分析を行い、また基町地区の地域特性を踏まえた美しい文化景観と、やすらぎを基調として、治水と環境が一体となった整備計画を策定した。具体的には、直線的な都市景観の中で、河川が持つ特性である曲線と古い水制工の突出を活かしたデザインが、玉石・植栽などの素材を活用して表現されている。さらに、中間地点である空鞆橋の上流側と下流側で多少のコントラストを与えている。下流側は、軽い運動・休息・散策ならびに落ち着いた雰囲気の中で河岸の風景を楽しめる静的なレクリエーションの場となるように、低水護岸は玉石を用いて緩やかなカーブをもたせ、高水護岸は割石でもって、やや急な勾配をつけハードな感じを与えている。上流側は、堤防天端から低水護岸まで緩やかなスロープで結んで堤防の存在感を希薄にし、開放で自由な活動のできる空間となっている。特に景観も考慮した護岸整備は先駆的事例であり、(社)土木学会より2003年度に土木学会デザイン賞の特別賞を受賞した。



写真—3 基町環境護岸



写真—4 ポップラ・ペアレンツ・クラブによる草刈り

もう1つ特徴的な話題として、基町環境護岸は高水敷にあったシンボリックなポプラを保存し、景観上、印象的なアクセントとなっていた。しかし、平成18年の台風でそのポプラが倒れたことを機に、そのポプラの再生を応援する企業と市民グループと有志が集まり、市民団体「ポップラ・ペアレンツ・クラブ」を発足した。この市民団体と、基町環境護岸（通称Pop' La通り）において、管理協定を締結し、市民団体が基町環境護岸のシンボルであるポプラの木の維持管理とその周辺の清掃を行い、その活動を通じて河川愛護の輪を広めるとともに、「愛される水辺創出」のために官民が連携する活動を協議・実施することとなった。



写真—5 映画の上映

3) 元安川親水護岸



写真—6 8月6日灯籠流し



写真—7 水辺のコンサート

元安親水護岸（原爆ドーム前）は、原爆ドームを対岸に望む「国際文化観光都市 広島」の中心となる場所に位置し、世界各国から多くの人々が集まる場所であるとともに、毎年8月6日には市民による「灯

籠流し」が行われるなど、平和を願う特別な場所でもある。このような背景の中、地元要望を受け、平成8年に、親水階段護岸延長約95m、親水テラス延長約120m、階段4箇所を整備し完成した。毎年8月6日の灯笼流し、水辺コンサート等各種イベントに盛大に利用されている。この様なテラス状の親水護岸は他の場所にもいくつか整備されている。

4) 河岸緑地

広島市中心部の市内派川沿いは、石積みの河川護岸と河畔の樹々の緑が川面に映る特徴的な景観を有している。下流部デルタ域はいわゆるゼロメートル地帯で、最近においても、平成3年、平成11年、平成16年と相次ぐ台風による高潮被害が発生している。このため、国土交通省が行う高潮堤防整備と広島市の行う都市公園整備相互の連携を図りながら防災及び環境の両面に対応した堤防整備を進めてきており、国土交通省が高潮護岸建設時に、親水性を持たせたデッキテラスや景観に配慮した護岸整備を実施し、高潮護岸整備後に広島市により高潮堤防上の河岸緑地の整備として、植樹や公園整備を実施している。

3. 「水の都ひろしま」構想と水辺整備・利用

「水の都整備構想」策定から10余年を経過した頃、これからは整備された水辺や河岸緑地などにおける様々な活動を展開し、市民にとって水辺をより身近なものにしていくことが重要であるとの認識が持たれるようになり、平成15年、市民と行政（国・県・市）の協働により「水の都ひろしま」構想が策定された。

「水の都ひろしま」構想は、①水辺などにおける都市の楽しみ方の創出、②都市観光の主要な舞台づくり、③「水の都ひろしま」にふさわしい個性と魅力ある風景づくり、の3つを目的とし、それを実現するために、「つかう」：市民による水辺の活用、「つくる」：水辺空間の整備とまちづくりの一体化、「つなぐ」：水辺のネットワークと水の都の仕組みづくりという3つの柱を掲げている。

「水の都ひろしま」構想を具体化する計画として「水の都ひろしま」推進計画が策定されているが、「水の都ひろしま」の推進体制の大きな特徴は、継続的に広く市民からのアイデアを求め、それにより推進計画は策定後も随時、事業の追加、見直しなどを行い、内容の充実を図っていることにある。

また、事業の実施にあたっては、市民や企業が主体となるものから行政が主体となるものまで全てを対象とするとともに、重要な事業を「重点事業」と位置づけ優先的に実施し、さらに、その中でも規制

緩和や新しい仕組みづくり等が求められる実験性の高い事業を「社会実験」と位置づけ、試行・評価・政策への反映を行うこととしている。

既存の取り組みを含めて例示してみると、「つかう」という観点では、水辺のオープンカフェ、水辺のコンサート、8月6日灯笼流し、水生生物による水質調査など、「つくる」という観点では、環境護岸、高潮堤防と一体となった河岸緑地、橋梁アンダーパスなど、「つなぐ」という観点では、雁木タクシー、水上バスなどがあげられる。なお、広島市では、「水の都ひろしま」構想の実現に向け、川や海などの水面及び水辺の空間を市民の創意工夫等を最大限生かす空間として活用し、都市の新たな魅力を創出する水辺での市民活動を促進することを目的として、先駆的・独創的な活動を助成事業に選定し助成金を交付するとともに、その活動事例を公表することにより、水辺での市民活動の拡大・充実を図ることとして「水辺の市民活動促進助成事業」を創設している。以下にいくつかの主な取り組みについて紹介する。

1) 水辺のオープンカフェ

平成16年3月の国土交通省河川局長通達で河川敷地占用許可準則の特例措置が定められ、太田川では京橋川右岸及び旧太田川・元安川地区が指定されたことから、京橋川右岸の河岸緑地において、平成17年10月より事業効果等を検証する社会実験として位置づけ、京橋川「水辺のオープンカフェ」が実施されている。

京橋川右岸は、都心（JR広島駅と八丁堀・紙屋町との2つの核の中間）に位置するとともに、水辺（河岸緑地）と市街地とが道路等によって分断されず直接接しているという地形的特徴を有している。これらの特性を活かして、河岸緑地を民間に開放してオープンカフェとして活用することで、水辺における賑わいや都心の回遊性（2核の間等）が創出されることが意図されている。また、これを契機に、これまで繋がりが希薄であった水辺と市街地との一体化が促されることもねらいの1つとなっている。

オープンカフェは、カフェの営業に必要な厨房等の施設（テーブル、椅子等は除く）が民有地内にある「地先利用型オープンカフェ」と、施設そのものが河岸緑地内に設置して営業する「独立店舗型オープンカフェ」の2通りの形態で実施されている。出店者の選定については、市民、経済・観光関係者、学識経験者、行政（国・県・市）で構成する水の都ひろしま推進協議会が行うとともに、出店者に対し、事業協賛金の徴収、周辺河岸緑地等の清掃を義務づけた。

独立店舗型オープンカフェ4店舗の利用者数は、開業1年目で、当初目標の約2倍に当たる約7万3千人の利用があり、また、イベント等の実施による効果も含めて開業前後で歩行者通行量が約3～7倍となり、水辺に賑わいの場が生まれている。さらに、オープンカフェ計画時には一部の住民から地域環境悪化の誤解を受けたが、徴収した事業協賛金から深夜時に店舗の周りを照らす電灯設備により防犯面が向上するとともに、河岸緑地の整備により、かつて不法駐車・駐輪が目立っていた場所も治安のいい空間となった。今年の8月からは元安川オープンカフェが従来の仮設型から常設型に拡充しオープンしている。



写真—8 京橋川「水辺のオープンカフェ」

2) 水上交通ネットワーク

太田川はかつて上流域からの木材の運搬や、瀬戸内海を經由した物資輸送に輸送路として利用されていた。太田川下流部では瀬戸内海の大きな干満の影響を受けて干満の水位差が最大4m弱と大きいため、必ずしも内水面航路として有利でない面もあるが、広島市民に対して行ったアンケート調査も防災及び観光等の日常利用の両面において水上交通への期待が非常に高い結果となっている。

雁木タクシーは平成16年10月に営業開始した水上タクシー運行業で、これからの広島のビジネスモデルを担う「舟運」として期待されている。太田川デルタは、潮の干満差が大きいことから雁木が発達し、生活物資の運搬船などの船着場として利用されていた。雁木タクシーでは、現在、市内に残る新旧含めて400あまりある雁木を遺産として残すだけでなく、本来の船着場としての用途で活用することにより、人と川との親しい関係を構築していくこととしている。雁木タクシーを運営するNPO法人雁木組では、これら雁木を後世に残すために、雁木の歴史的な価値を検証するプロジェクトを実施するとともに、本川の歴史的護岸の修復作業にも取り組んでいる。



写真—9 雁木タクシー

また、別の市民活動団体が会社経営による水上バス事業として、原爆ドームと宮島を結ぶ「世界遺産航路」、市内観光遊覧船の運行を行っている。

3) 泳ぎ遊べる水辺（底質改善）

太田川の水質は、下流部でも近年はBOD：1以下、COD：2を少し上回る程度（いずれも基町環境護岸周辺）と百万人の政令都市としては格段に良い。水浴場水質判定基準（環境省）によれば、夏場高い数値を示す糞便性大腸菌群数を除けば水浴には適する。しかし、海から流れ込む微細粒子により、市内派川の河岸干潟の泥化は進行（砂層上に約40cm程度泥が堆積）し、河川浄化能力の低下、生物生息環境の悪化、水辺景観の悪化を招いている。太田川河川事務所、広島大学、中国電力グループでは、火力発電によって生じる石炭灰を用いて作成した浸透柱を有機泥（シルト・粘土）層の下に堆積する砂層まで貫入し、潮汐の干満を利用して浸透柱内の水循環を生起させることによって堆積泥内に酸素を供給し、生物生息環境を向上させることで、生物による堆積泥処理効果を期待し、これによって底質改善を図るという共同研究を進めている。

4. おわりに

「水の都ひろしま」構想は、従来の行政主導の上もとの整備による水辺づくり・地域づくりだけでは限界があることを悟り、「つかう」「つくる」「つなぐ」という3つの柱による「水の都ひろしま」の推進を謳い上げた。ただし、これまでの水辺整備の財産は十分にかつ有効に活用できることは証明されている。6本の大きな河川がデルタ上に拡がり身近な水辺を感じることでできる広島は、正に水の都にふさわしい立地条件を有している。この潜在能力の高い広島の河畔を愛する多くの市民の皆さんとともに安全で元気の出る地域づくりに取り組んでいきたいと考えているところである。各位からの、ご指導、ご助言をお待ちしております。